

身の回りの出来事などを500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は(〒950-1292 白根市大字白根1235 白根市企画財政課秘書広報係)です。

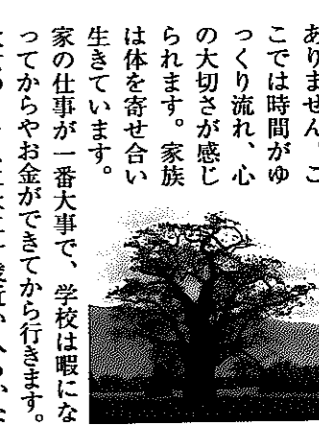
一九九九年十月 マラウイから

大矢 重幸
(四十六歳・根岸)

私は国際協力事業団(JICA)という外務省外郭の国際技術協力機関から、二年の任期でアフリカのマラウイに派遣されています。JICA派遣技術協力専門家という身分で、専門は農業普及および農民組織計画です。着任したのは今年一月、こちらは南東部の、細長い形をした小国です。気候は常春で、雨期と乾期があります。隣のタンザニアやケニアにあるようなサバンナはほとんどありません。マラウイには妻と高校二年生の次男、中学二年生の次女が一緒に来ています。学校や住みやすさの関係で、家族は首都リロングウェに住んでいます。私は月曜日から金曜日までは首都から百二



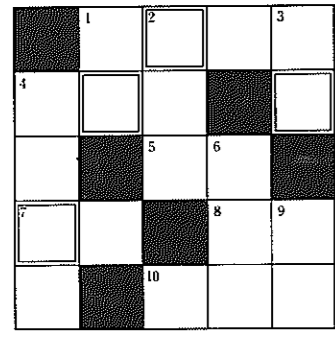
十キロメートル離れたサリマ湖畔に住み、そこから九十キロメートル離れた水田地帯の村に通っています。村の真ん中には大きなバオバブの木があり、そのそばに家を建設中です。総工費は八千クワチャ(約二万四千円)。れんがの壁に草ぶきの屋根、閉めると暗い木製の窓。水は共同井戸、明かりはランプ、料理は炭やまきを使います。十二月には日本政府の無償資金協力による、この国最大の水田かんがい施設(八百ヘクタール・約十九億円)が完成します。その施設の維持管理を行うため、二千軒の農家による組織をつくり、稲作技術の指導を行う予定です。これらは現政権の最大課題である「貧困撲滅・食料自給」の手掛かりとなる大切な仕事です。現在は本格的に稲の作付けが行われる十二月を前に、六人の担当普及員や政府職員を対象にテキストを作り、講習会を開いています。彼らには直接農民への指導をしてもらいます。耕運や苗代作り、田植えなどの各作業前には、農民への講習会も開く予定です。マラウイは世界でも下から数番目の貧しい国です。しかし生活は不幸では



ありません。ここでは時間がゆっくり流れ、心の大切さを感じられます。家族は体を寄せ合い生きています。家の仕事が一番大事で、学校は暇になってからやお金ができてから行きます。次女のクラスには二十歳近い人もかわきまえていて、言われなくても義務を自然に果たし、厳しさが感じられます。彼らはまた、精霊や神、宗教を大切に、よく祈ります。自然を大切に、儀式では踊り祈り、感謝します。彼らの貧しい生活に、ゆとりと豊かさを感ずることがよくあります。一月に来たときはオレンジの花、九月に日本へ一時帰国し再びマラウイへ戻ったときは、ジャカランダという紫の花で、国中はいっぱいでした。マラウイは豊かな自然とやさしさと温かさ、そして愛情を感じさせてくれます。

広報クイズ

図書券が当たる!



- ◆ヨコのカギ
①新年になると、玄関に立っています
④古い歴史のある店
⑤冷ますときは「フウ」、温めるときは「ハー」
⑦頭隠して〇〇隠さず
⑧威勢がいいときは風を切る。落胆したときは落とす。
⑩サラダ、シャンプー、タンカー
- ◆タテのカギ
①白、杵、蜂、栗の助けで、猿をやっつけました
②太陽系の惑星の中で、2番目に大きな惑星
③ワンとスリーの間
④カラヤン、小沢征爾
⑤何かをするのに好都合な時機。チャンス
⑥酒やしょうゆなどを入れる木製の容器

□の中の字を並べてください。
ここで世界の祭典が行われます

広がれ健康家族

インフルエンザに負けないために

インフルエンザは どうやって移る

インフルエンザウイルスは、せきやくしゃみのしぶきを直接吸い込んで感染する場合と、床などに落ちたウイルスがほこりとともに舞い上がって空気中を漂い、それを吸い込んで感染する場合とがあります。毎年冬になると、患者数が激増します。

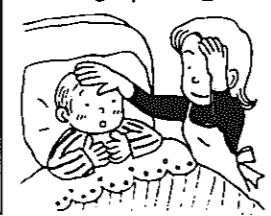
インフルエンザ予防のための徹底対策

- ①うがい・手洗い
うがいはのどを清潔にし、ウイルスを取り付きにくくする効果が期待できます。外出から戻ったら、うがいをしたり、手を洗ったりする習慣を身に付けましょう。
- ②ウイルスから避難する
インフルエンザの原因であるウイルスには、できるだけ近づきたくないものです。次の点に注意しましょう。
・インフルエンザ流行時には、できるだけ人混みに行かない。
・多く人が集まる、閉鎖された場所を避ける。
・マスクをする。

98 保健福祉課 ☎237

「かかったかな」と思ったら

早く直すには、無理をしないことが大切です。軽く考えず、早めに医師に診てもらいましょう。



早く治すための4つの心掛け

- ①とにかく安静
- ②水分を十分にとる
- ③保温も大切
- ④食事は消化の良い温かいものを

市民文芸

- 俳句
作品と記念写真や文化祭
厚々と子羊皮むく夜なべかな 小林 すみ
家中の障子一家で貼り終へる 勝山 絢子
日蓮の獅子吼の像や石路の花 五十嵐智恵子
乳母車大かも瓜を乗せて行く 安澤 飛浪
そばへして山にび色に片時雨 木村 トリ
道となる今年限りの稲を刈る 小林 光子
障子貼木の葉挟みて穴ふさぐ 山田 孝
一束つつ逆さに立てて豆を干す 五十嵐寛吾
約束の如く灯し頃の霧 池乗 北魚
柿もいて空の青さの広がりがぬ 公條 雪夫
たくり寄せ切りし一輪冬椿 古川 綾
小春日や歩きたそうに地蔵草 堀内ナナ子
荒ぶれる風の詩聴く冬初め 山田 栄一
小春日の水やはらかに蹴洗ふ 小野 義之
校庭の欄のぬけ道小春かな 真嶋つぎえ
柿落葉撥ねて餌とる野鳥かな 小林 富沙子
小春日や縁に持ち出す針仕事 小林 なお
小春風三竿に余る物干して 塚本 静子
初冬やはずれ馬券が風に舞ふ 田中美根子
培養の腐葉土作る柿落葉 金子 千代
小春日や蔭にさからふ鴉いて 知野信一郎
ひたひたと見えぬ敵来る冬はじめ 遠藤 大蔵
丸山 虚秋

短歌

- 日章旗何時眺めても勇みたち国家殉ずる心沸きたつ 根岸 資郎
常々に悩み多かる我が心優しき会話に勇気づけらる 河内 勝哉
大地より立つ水仙の芽冬に耐え花達けれど待つ望みあり 星 ハツノ
我が作る拙き茶碗買いくれし人想いつつバザアを終る 田中 恭子
よみゆけは吸われることき一首あり刻を忘れて心向き合 出来島ミサホ
「果物はなかに」と問いつつ湯気立てて風呂上りくる幼等二人 阪井いくの
母は手を差出す度に激増してせめて願ふは手踊りなす日を 小出 正人
- 川柳
中腰の踊り子もいる芸能祭 丸山 一郎
七十三才羞恥あり恋もする 織田 セツ
笑う日を信じて生きた茨道 佐藤 ヨキ
平凡に生きる小さな予約席 鈴木 テフ
龍の眼が睨む附甲斐ない政治 高橋祐四雄
のんびりと浄土へ歩くカタツムリ 田村 恒夫
初夢に大内山の鯉鱈 中村 尚治
ほろ苦い思い出つれてブーメラン 西条 ムラ
旅疲れやっぱり我が家の蕎麦枕 山岡 フミ
初詣であの世あろうとなかるうと 吉川 彰
運命なり冷たくなったホッカイロ 今井 七郎
ソロバンをしっかりと弾く処世術 大谷 龍吉
お返しは迅速にする律儀者 岡 満記子
故郷に川あり旨い鮭茶漬 今井八重子